



**日本出版クラブ理事会・評議員会 開催
2026年度事業計画・収支予算を承認**

2026年3月30日(月)、一般財団法人日本出版クラブ理事会並びに評議員会が開催され、2026年度の事業計画・収支予算が承認された。

なお、2026年度の主な事業は下記の通りである。



出版クラブ会報
No.633

——— 2026年度の主な事業 ———

- (1) 講演会「本の街・神保町のランドマーク 三省堂書店の145年」(出版卒会との合同開催)
日時=2026年4月3日(金) 午後3時より
会場=日本出版クラブホール
講師=亀井崇雄氏(株式会社三省堂書店代表取締役社長)
- (2) 第65回全出版人大会
日時=2026年5月7日(木) 午後3時より
会場=ホテルニューオータニ 鶴の間
大会委員長=鉄尾周一氏(株式会社マガジンハウス代表取締役社長)
- * 恒例の長寿祝賀・永年勤続表彰による出版人に対する顕彰とともに、大会声明採択・記念講演会等、出版文化の昂揚の場としていく。
- (3) 出版平和堂 第58回 出版功労者顕彰会
日時=2026年10月2日(金) 正午より
会場=箱根 出版平和堂・箱根ホテル
- * 出版物故者の調査をもとに出版功労者の顕彰
- (4) 第74回読書のめぐみ運動
開催期間=2026年10月中旬~2027年2月
- * 維持員社をはじめ出版関連会社の善意により、児童福祉施設・矯正施設等に図書にの寄贈をおこなう
- (5) 出版関係新年名刺交換会
日時=2027年1月7日(木) 正午より
会場=出版クラブホール

- * 野間省伸日本出版クラブ会長等、出版5団体の代表が新年の抱負や決意を業界内外に表明、『出版クラブだより』への名刺広告協賛も含め、出版文化昂揚並びに親睦・交流の場とする
- (6) ライブラリー企画展—小さな本の展示会等
- ・「全出版人大会記念風呂敷展と出版関連団体紹介」<4月1日(水)~5月7日(木)>
- ・「JBBY 世界の子どもの本展」<5月11日(月)~6月22日(月)>
- ・「法律書・経済書展」<6月23日(火)~7月17日(金)>
- ・「次世代辞書研究会企画展」<7月18日(土)~8月31日(月)>
同時開催「戦争と言葉展」
- ・「全出版人大会風呂敷展と出版関連団体紹介Ⅱ」<9月1日(火)~9月18日(金)>
- ・「2026年 第59回造本装幀コンクール作品展」<9月24日(木)~10月23日(金)>
- ・「神保町が好きだ!展」<10月26日(月)~11月27日(金)>
- ・「自然科学書協会創立80周年展—未来への懸け橋 知識の泉」<12月1日(火)~1月15日(金)>
- ・「卒会出版文化賞・新聞社学芸文化賞受賞社展」<1月18日(月)~2月26日(金)>
- ・「第4回ジェンダー展」<3月1日(月)~4月30日(金)>

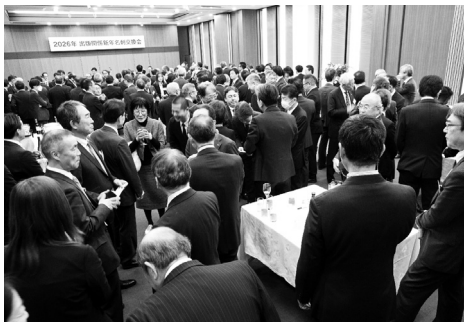
主な記事

- ▽ 一般財団法人日本出版クラブ 理事会・評議員会開催
 - ▽ 2026年度事業計画案・収支予算案が承認される
 - ▽ 2026年 出版関係新年名刺交換会開催
 - ▽ 第73回読書のめぐみ運動報告
 - ▽ 「能登の置き本」が照らす、仮設住宅の日々
 - ▽ 「読書会in日本出版クラブ」開催報告
 - ▽ 「出版歳時記 古代から続く日本とイランの深い絆」
 - ▽ (出版歳時記 古代から続く日本とイランの深い絆)
- 鎌倉幸子 四六二
柿沼けい子 七三

2026年 出版関係新年名刺交換会を開催

恒例の「2026年 出版関係新年名刺交換会」が1月7日(水)12時より神田神保町の出版クラブホールで開催された。日本出版クラブの野間省伸会長をはじめ、日本書籍出版協会・小野寺優理事長、日本雑誌協会・飯窪成幸副理事長、日本出版取次協会・近藤敏貴会長、日本書店商業組合連合会・矢幡秀治会長など出版関連団体のトップが一同に会する2026年最初の懇談の場となり、当日は約370名の出版関係者が参集した。

野間会長は「6年ぶりに、日本書籍出版協会、日本雑誌協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会、出版4団体のトップの方々と並んで新しい年を



祝うことができ、大変うれしく思います。昨年の年間ベストセラーは吉田修一さんの『国宝』でした。映画化され、邦画の実写における歴代最高記録を更新、映画業界を巻き込んだ一大ムーブメントとなりました。

またイギリスで柚木麻子さんや雨穴さん作品が翻訳出版され、権威ある文学賞の候補になるなど、近年ヨーロッパでは日本文学ブームが起きています。注目

2026年 出版関係新年名刺交換会



される作品が出ている一方で、出版業界の大きな課題の一つが書店の数がこの20年で約半分に

3月19日、三省堂書店 神田神保町本店オープン

去る3月19日、三省堂書店神田神保町本店が約4年の小川町の仮店舗の期間を経てリニューアルオープンした。新しいコンセプトは「Entrance to the World」。1階には「世界の展望台」と名付けられた場所があり、視界に広がるさまざまなジャン

ルの棚を一望できる。2階、3階には「探求の洞窟」と呼ばれる空間により、読者を没入感に誘い、本との新たな出会いを演出する。

三省堂書店のオープンは出版界のみならず神田神保町という地域にとっても待ち望まれていた文化の拠点の誕生となる。これを機会に出版クラブの2026年度最初の事業として亀井崇雄社長の講演会を実施した。

減少していることです。これを受けて6月には経済産業省から「書店活性化プラン」が公表されました。今後は課題解決の施策をどう具現化するか、一刻も早い改善に向けた実行力が大切です。いつも申し上げているように、出版界が豊かに発展するために書店の活性化が不可欠だと考えます。日本の出版物の推定販売金額は30年前の1996年の2兆6564億円をピークに右肩下がりが続き、昨年は書籍と雑誌を合わせて1兆円を切ったと思われます。いわば「出版界の失われた30年」に終止符を打つためには、迅速で大きな改革が必要です。出版界一丸となって取り組んでいきましょう」と挨拶し、声高らかに乾杯した。

3階・4階の会場は多くの参加者の熱気に溢れ、終始華やいだ雰囲気包まれ大盛況のうち



出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申し上げます。



受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい

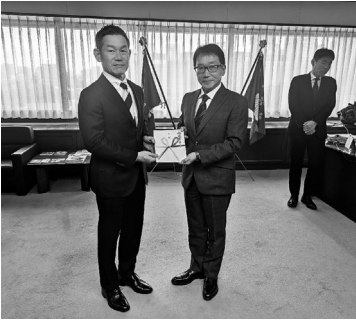
第73回 読書のめぐみ運動 報告

86社より約1万5千冊の図書を寄贈

児童福祉施設や母子生活支援施設の方々、また刑務所や少年院などの矯正施設で生活をする方々に図書を寄贈する「読書のめぐみ運動」も2025年度で73回目を迎えました。

今年度は86社のご協力を得て、1万5563冊の図書を寄贈しました。運送費などに充てられる協賛金も18社のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。本年度も皆様からお送りいただいた寄贈図書を一時的に保管する場所として昭和図書のご協力をいただきましたことともご報告します。

寄贈先である東京都、大阪府、京都府、埼玉県等の施設より御



施設より届いたお礼状①、東京都に寄贈した本の仕分けの様子②



礼がぞくぞくと届いています。なかには子どもたちからのかわいらしいお便りもありました。「えほんよんだよ!」「あたらしい本がきてうれしいです。たくさん読もうとおもいます」「私は本が好きでたくさん読みます。いろいろな絵や文があるのです。いつもたのしく読んでいます。寄付してくださった本も大切に読みます」といった喜びの声や「本をあんまりよまないけ

ど、よんでみます」「ぼくは、少しだけ本が好きです。新しい本がくるとちょっとわくわくします。これからもたくさん本を読みたいですよ」といった素直な感想まで、心がほっこりするお手紙もありました。また、2026年2月26日(木)11時30分より、法務省にて「読書のめぐみ運動」の図書贈呈式が行われました。日本出版クラブからは横川専務理事、千倉

図書寄贈協賛社名

あかね書房 朝日新聞出版 秋田書店 池田書店 1万年堂出版 岩崎書店 岩波書店 潮出版社 NHK出版 大垣書店 Gakken 風間書房 KADOKAWA 河出書房新社 金の星社 共立出版 教育芸術社 工藤出版サービス くもん出版 暮しの手帖社 建帛社 佼成出版社 講談社 光文社 国際紙パルプ商事 国土社 小峰書店 産労総合研究所(経営書院) CQ出版 集英社 小学館 小学館集英社プロダクション 祥伝社 昭文社 新生紙パルプ商事 新潮社 数研出版 成美堂出版 世界文化社 増進堂・受験研究社 第一出版 第三文明社 大修館書店 高橋書店 筑摩書房 チャイルド本社 中央公論新社 つり人社 東京創元社 東京堂出版 童心社 徳間書店 永岡書店 日教販

日本ヴォーグ社 日本紙通商 日本紙パルプ商事 日本教文社 日本実業出版社 日本芸芸社 農山漁村文化協会 白泉社 ぴあ PHP研究所 ひかりのくに フォレスト出版 福音館書店 婦人之友社 双葉社 ブティック社 フレーベル館 文英堂 文化学園文化出版局 文藝春秋 文理 ベレ出版 ポプラ社 マガジンハウス 光村教育図書 緑書房 山川出版社 理論社 黎明書房 (以上86社)

協賛金協力社名

医歯薬出版 共同印刷 近代セーブルス社 実教出版 裳華房 成美堂出版 大日本印刷 ダイヤモンド社 ダヴィッド社 筑摩書房 日教販 日本加除出版 日本文教出版 ひかりのくに 富士経済グループ本社 フォレスト出版 文化産業信用組合 養賢堂 (以上18社) (社名50音順)

成示事業運営委員長千倉書房、事務局2名が出席しました。千倉事業運営委員長から日笠和彦矯正局長に目録を手渡す贈呈式が行われた後(写真上)、矯正局長室では終始和やかな歓談となりました。今年度の法務省への図書寄贈は一般書・雑誌

等を含わせて5324冊です。これまで矯正施設への図書寄贈は90万冊余を超えました。これからも矯正施設で生活している少年少女たちが社会に出た後の生活に役立つよう、本事業を続けていくことが大事だと再認識する場となりました。

■日本出版クラブ震災対策室

「能登の置き本」が照らす、仮設住宅の日々

鎌倉 幸子

2024年7月に日本出版クラブ震災対策室が発足し、同年秋から「能登の置き本」と称し被災地35カ所に図書寄贈をおこなっている。能登半島地震から2年を経て、震災対策室運営委員会のメンバーである鎌倉幸子氏に2月のモニタリングの報告をお願いした。

いまも続く
仮設住宅の暮らし

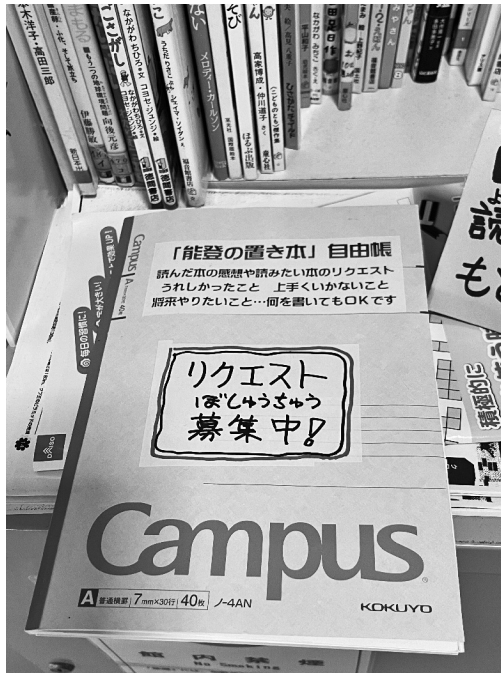
2024年元日に発生した能登半島地震から、2年が過ぎました。令和7年版防災白書によれば、この地震による死者・行方不明者は594名にのぼり、そのうち災害関連死が364名と直接死を大きく上回りました。災害関連死の約8割は80代以上の高齢者であり、長引く避難生活や仮設住宅での暮らしの厳しさが高齢者の命に直結している現実があります。住家被害は全壊6,520棟を含む約16万5千棟に達しました。さらに同年9月の奥能登豪雨では建設途中の仮設住宅にも被害が及

び、復興の道のりは二重の打撃を受けました。

石川県内では建設型の応急仮設住宅が合計6,882戸整備されましたが、2025年末時点でなお約1万8千人が仮設での暮らしを続けています。入居期限は原則2年ですが、恒久的な住まいの確保が間に合わず延長が認められたケースもあります。復興公営住宅は石川・富山両県の10市町で計約3,000戸が計画されていますが、早い

団地でも入居開始は2026年8月以降の見込みです。奥能登4市町(輪島市・珠洲市・能登町・穴水町)では2028年度にかけて順次完成し、全体の整備完了は2029年度の予定といわれています。仮設での暮らしが数年にわたって続く方も少なくありません。

こうした中、輪島市立図書館が入居していた輪島市文化会館の解体工事が始まりました。2025年11月、日本出版クラブ



約8万5千冊の蔵書と什器を2トントラックで運び出した

4日間で35カ所を巡る
モニタリング

震災対策室の2トントラックの支援とボランティアの力で、すべての蔵書と什器を旧西保小学校へ移転することができました。しかし図書館の再建にはまだ時間がかかります。書店も図書館もない地域で、公民館や仮設住宅の集会場に設置された「能登の置き本」は、住民が本に触れることのできる数少ない場として、ますます重要な存在になっています。

珠洲市では地震と豪雨の影響で上戸公民館が閉鎖され、旧上戸保育所の建物が機能を移しました。直公民館には、かつて仮設住宅にあった置き本が移設されています。被災地の状況は日々変わり、それに合わせて本の届け先も変わっていきます。

2026年2月4日から7日にかけて、能登の置き本のモニタリングを実施しました。モニタリングでは、本棚の上に置かれている「能登の置き本自由帳」の確認がメインの仕事となります。このノートには「読んだ本の感想や読みたい本のリクエスト うれしかったこと うまくいかないこと 将来やりたいこと:何を書いてもOKです」という紙が貼られています。また、公民館に設置されている箇所では職員の方と、仮設住宅の集会場にいらっしやる方がいたらお話をうかがうこともあります。



各社から届いた第5回「能登の置き本」用の図書

初日は輪島市の公民館7カ所を巡りました。2日目は七尾市の応急仮設住宅6カ所を訪問。七尾市の垣吉団地では自治会が独自に「本の貸出しルール」をつくり、一度に1冊まで、1ヵ月以内に返却、部屋番号を記入するといった住民主体の運営が根づいていました。3日目は穴水町の仮設住宅6カ所と能登町の仮設住宅6カ所を訪問。最終日は珠洲市の公民館10カ所を巡り、4日間で延べ35カ所のモニタリングを完了しました。

設置場所は大きく二つのタイプに分かれます。珠洲市と輪島市では地域の公民館に本を設置しており、館長や主事が利用者とやりとりしながら運営しています。公民館では手芸教室や料理教室、子ども食堂なども開かれ、教室で使う本へのリクエストが数多く寄せられています。珠洲市の日置公民館では実際に置き本を教材に使った教室が開かれており、大谷公民館では診療所も併設され、遠方のボランティアの宿泊場所にもなっていることから、宿泊者にとっても本がありがたいとの声がありました。一方、七尾市・能登町・穴水町では応急仮設住宅の集会場が設置先ですが、ノートに記入がない場所もあり利用の濃淡が見受けられました。三井公民館では本棚がいっぱいになり追加購入を検討

中、南志見公民館では高齢者がかかまずに済むよう本棚を横向きに置き、河原田公民館ではリーディンググラスが本棚のそばに用意され、蛸島公民館では公民館にある本棚も併用して置き本の蔵書を展開し、独自の「能登の置き本リスト」をつくって書名と著者名を管理するなど、積極的な受け入れ態勢が整っています。

た。正院公民館では4月から新たに公民館主事が着任し、館長と二人体制での運営が始まっています。

本棚の前のノートに綴られた声

各設置場所の「置き本ノート」には、暮らしに根ざした多彩なリクエストが書き込まれていました。小説では東野圭吾や森村誠一のミステリー、佐藤愛子のエッセイ、瀬尾まいこのシリウス、五木寛之の歴史小説への要望が多く寄せられています。実用書では料理、発酵食品づくり、手芸、編み物、ちぎり絵、書道の手本、折り紙からPPPバンドバッグの作り方まで、公民館の教室活動に直結する本が幅広く求められています。「仮設住宅が狭いので、狭い中でもできる料理本が欲しい」という声には暮らしの切実さがにじんでいます。大活字本や脳トレの本、川柳・俳句の入門書など高齢者向けの本にも根強いニーズがあります。漫画では子どもたちが『キングダム』『ダンジョン飯』『ブルーロック』の続巻を力強い字で書き込み、大人は朝ドラや大河ドラマの原作本に関心を寄せていました。

ノートに記された感想には、心に深く残る言葉がいくつもありません。穴水町の港町団地で



輪島市の大屋公民館。PTA会長を務める輪島市立図書館の細谷さんが、置き本から卒業式のスピーチ集を借りていた

は「3回目の本たくさんありがとうございます。どうぞありがとうございます。どんなふうできて、あ、これ知らない、読んでみようという気持ちがおきてきます。手紙、本というものがどんなにさわられる時間がなくなってきたのでうれしです」という丁寧な感謝が綴られています。由比ヶ丘団地では「シルバー川柳」を読んだ方が「久しぶりに笑ったように思います。自分だけではないと思える1冊でした」と記してくださいました。仮設暮らしの日々で、1冊の本が笑いや共感を届けていることが、ノートの文字から確かに伝わってきます。

珠洲市の日置公民館では寺井由比ヶ丘団地のノートには、

館長が「本は文化のパロメーター」と力強く語りました。ノートには「読書が特別なことでなく生活のちよっとした楽しみになってるのは、気軽に立ち寄れる公民館の置き本ならでは」との感謝が記されていました。「震災から2年が経ちましたが、忙しい毎日でもまとまった読書の時間はなかなか取れません。でも公民館は歩いて行ける距離にあるので、立ち寄った少しの時間にページをめくるだけでも気分転換になり、心が落ち着きます」とも綴られています。正院公民館では、棚の本をばっば読破した利用者にお会いしました。「いままでも出会わなかった本と出会えるのがうれし。大きな本屋さんだと逆に何を読めばいいか迷う。この本棚の規模がちょうどいい。いい本を置いてくれるので、読みたい気持ちが出てくる」。大きな書店では選びきれないからこそ、小さな本棚の一冊一冊が届くのだということを教えられました。



珠洲市にある若山公民館の「能登の置き本」

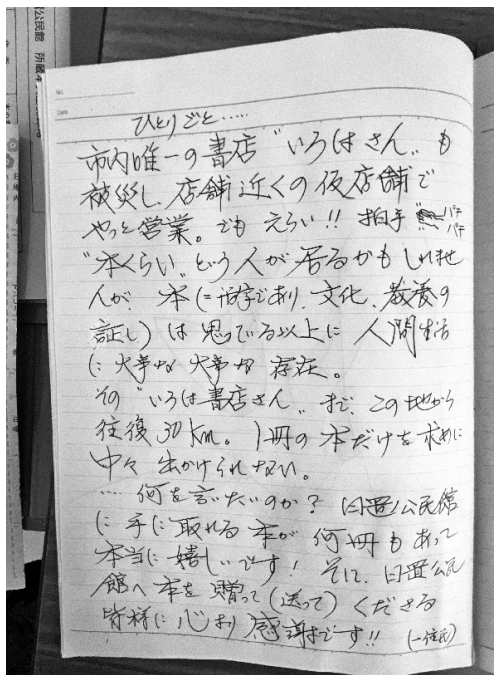
港町団地のノートには「集会所で読書をしています。まるで、ページをめくるひとときは気分転換であり、新たな発見であり、人とのつながりのきっかけでもありません。能登町のやなぎだ団地では、ミステリー本を集会場で読んでいたお母さんが「怖いので仮設の部屋ではなく、みんなが来る集会場で読んでくれるの」と教えてくれました。まだ箱に入ったままの本と一緒に棚に並べると、「こんな

92歳の方がこう綴っています。「もともと勉強はあまりしない方で、体力にまかせて相撲・柔道・剣道をやった両者です」。毎日自分で考えた体操をし、趣味の書を書き、囲碁の大会にも出場しているといえます。そして「あと何年この世に生きていられるか」と記した上で、「命ある限り、人間として勉強したいと思っています」と結んでいました。本を手にとることが、この方にとって「勉強し続ける」こと、生きている実感を感じる機会なのだと思います。

食卓のようで、おちついて本が読めます。昭和の時代の書物もありましたらお願いします。次はどんな本に出会えるのか楽しみにしています」という声がありました。仮設住宅の集会場が「食卓」のように落ち着ける場所になっている。本棚のある集会場が、暮らしの中の居場所になっていることを示す言葉でした。

本を届け続けること

復興公営住宅への入居が本格化するの、まだ先のことです。仮設住宅での暮らしが続く中で、ページをめくるひとときは気分転換であり、新たな発見であり、人とのつながりのきっかけでもありません。能登町のやなぎだ団地では、ミステリー本を集会場で読んでいたお母さんが「怖いので仮設の部屋ではなく、みんなが来る集会場で読んでくれるの」と教えてくれました。まだ箱に入ったままの本と一緒に棚に並べると、「こんな



本もあるんだね。今度から私がここに並べて、みんなに声をかけるわ」と言ってくれたいました。本があることで人が集い、新たな役割が生まれる。鶴巣公民館のノートには「本のある空間に癒されています。ありがとうございます」という一行が記されています。その一行が、すべてを語っているように思います。

能登の置き本は、ただ本を届けるだけの活動ではありません。ノートに書かれたリクエストに応えて新しい本を届け、感想を通じて読者の声を受け取る。一冊一冊のやりとりが、離れた場所にいる出版関係者と能登の読者を確かに結びつけています。港公民館では「他の公民館ではどんなリクエストがあるのか知りたい」との質問をいただきました。置き本を介した地域の横のつながりも芽生えています。鳳至公民館では子どもたちがノートに元気な感想や絵を描いてくれていました。本は世代を超えた交流の媒介にもなっています。能登島向田町の団地ではノートに「いつも希望する本を送ってくださいありがとうございます。楽しく読ませてもらっています。またよろしくお願ひします」という温かなメッセージも残されていました。仮設住宅の集会場や公民館の一角にある小さな本棚が、能登の暮らしを静かに照らし続ける場であるよう、これからも本を届けてまいります。(エフアジャパンプログラムマネジャー/日本出版クラブ震災対策室運営委員)

出版平和堂

この地を訪れ、出版界の歴史や思いに触れてみませんか 事前の予約をお願いします

問い合わせ：一般財団法人日本出版クラブ 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル 5F TEL 03(5577) 1771 https://www.shuppan-heiwado.jp/



クラブライブラリー

「読書会in日本出版クラブ」開催

〈報告〉 柿沼 けい子

去る3月5日木曜日18時30分より、出版クラブビル4階会議室にて、「読書会in日本出版クラブ」を開催しました。これは、私も千代田区男女共同参画センターMIW(九段下)が国際女性デー2026キャンペーンの一環として実施したもので、かねてより相互交流のあった日本出版クラブの協力を得て実現したコラボレーション企画です。

今回、昨年11月に日本出版クラブが開催された「ひとりひとりが「生きる」みんなの世界」ジェンダーと読書」展の中からのセレクトションに加え、MIWが独自に選んだジェンダー関連のオススメ本を会場に展示しました。仕事帰りの方を中心に14名(定員15名)が参加されました。

参加者は、まず受付でご自身のスマホをスタッフに預けます(「スマホを置いて日常から離れ、本と向き合う時間を過す」という本イベントの趣旨に沿って、本を読むという行為に没入するため、文字通りスマホを机の上に置いていただくことに)。その後、ファシリテーターの神保純子さん(日本出版クラブライブラリー委員)、大森葉子さん(講談社「栗原はるみ」編集部)を囲み一つの大きな円になって着席し、会は進行していきます。展示の中から思い思いに本を手にとった参加者は、各々好きな場所で本を読むことができます。4階会議室だけでなく、3階のライブラリーやエレベーター前のスペース等、くつろいだ雰囲気の中でゆったり



と読書を楽しんでいました。

そして小一時間後、最初の席に戻りファシリテーターのリードのもと、読んだ本についての感想や気になった言葉に参加者全員でシェア。「この本を選んだ理由」一つとってみても、それぞれに個性があり、皆さんが互いの話に真摯に耳を傾けながら深く傾く姿がとても印象的でした。また、「スマホを置いて」ただ本を読む」という至福の時間一あとは、読んだ本から得たジェンダーに関する「気づき」のみならず、その人の「人生そのものについての語り」を分かち合う場面もあり、本と言葉を通じて大いにエンパワメントされた読書会となりました。

千代田区男女共同参画センターMIWといたしましては、千代田という地域の中で皆さまとつながりを持ちながら、性別による不平等がなく、だれもが自分で生き方を選ぶことができ、その選択が認められて参画できる社会の実現を目指していくための活動拠点として、今後ともさまざまな取組みを続けてまいります。千代田区役所10階MIWには、男女共同参画やジェンダーに関する図書や雑誌を揃えた情報ライブラリーもご用意です。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

千代田区男女共同参画センターMIW事業担当)

出版企業年金基金への加入のご案内

出版企業年金基金では、基金に加入していない出版社さまなどに、加入の募集を行っています。

当基金は出版関連企業(出版社、取次会社、書店等)を中心にするすべての厚生年金加入事業所を加入対象とした確定給付型の企業年金で、現在600社を超える出版社などが加入しており、今年で前身の出版厚生年金基金の設立(1986年)から40周年、現基金に移行してから10周年を迎えます。

加入すると、会社さまは退職金を平準化して外部積立とすることができ、拠出した掛金は全額損金扱いとなる税制優遇があります。

また、加入者(従業員)さまは掛金を負担することなく老後や退職時に掛金の総額に運用収益(年2.5%相当)を加算した額を年金や一時金として受けることができ、さらに、在職中には慶弔金が受けられる制度も備わっています。

当基金では、今後、基金に加入していない出版社さまなどにご案内文書を順次送付させていただきますこととしており、この機会に、ぜひご検討いただければ幸いです。

お問い合わせ

出版企業年金基金

業務部 新田、河野、渋川

03-5259-9111

Mail: gyoumu@syupan-kin.or.jp

出版 歳時記

▽2月末から始まったアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃。イラン南部の小学校の多くの女子生徒が空爆で亡くなるなど、日々胸がつぶれる思いがしている。

▽思えば、去年の春以降、何度イラン大使館に通ったことだろう。イラン大使のペイマン・セアダット大使が原爆の被害について詳しく学びたいと言ってこられた。わたしの母は広島島の爆心地から800メートルのところで原爆に遭遇。また、被爆2世のわたしは、朝鮮半島出身の人たちの被爆をテーマにした朗読劇を大学生とともに制作し、原爆資料館で発表したりしてきた。そのことを大使が知って、わたしがお手伝いすることになったのだ。

▽大使は、ヒロシマとナガサキを訪ね、被爆者から体験を聞き、町を歩いた。八王子の平和・原爆資料館では、亡くなった十四歳の少年の制服の前で涙を流した。

▽今年の1月、大使に大学に來てもらい市民の前で話をしてもらった。そこで紹介された詩集がある。ペルシヤの詩人オマル・ハイヤームの四行詩「ルバイヤート」。日本で源氏物語が生まれた少し後、11世紀の文学だ。

▽「さあ友よ、明日を悲しむのはやめよう。人生のこの一瞬を恵みと思おう。酒をのめ、これこそが永遠の生命、青春の果

けた詩人に宮澤賢治がいる。英語版を上田敏が翻訳したものに出会ったようだ。詩集「春と修羅」の中の詩「雲」に、「青じろい天腕のこつちにまつしろい雪をかぶって 早池峰山がたつてゐる」というくだりがある。これは「ルバイヤート」の「われらが天空と呼ぶ あの逆さまになった腕」の影響があると、中央アジア史の研究者・金子民雄は書いている。

▽ペルシヤン・ブルーの焼き物のような青空。青色のガラスの器は、はるかシルクロードを超えて東大寺正倉院にやってきました。春を告げるお水取りの炎の儀式はゾロアスター教をルーツにする。古代から続く日本とイランとの深い絆を思う。

▽わたしは今、二度と核兵器の悲劇を繰り返さないために、テヘランに原爆資料館のような施設をいっしょにつくりましょうと大使に話している。どうかこの戦争が一刻も早く終わりますように。

▽代表者変更
金原出版 福村直樹 前田達也
金子書房 金子紀子 金子賢佑

▽住所変更
税務経理協会 〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4 泉白山ビル5F

古代から続く日本とイランの深い絆

実なのだ(岡田恵美子訳)。これは後日、わたしが、平凡社ライブラリー版の中で見つけた一節。イランと言えば、厳格なムスリムの国というイメージが強い。だが「ルバイヤート」は、イスラム教というよりその前のゾロアスター教の精神が底流にある。無常観が漂いかつ享乐的。宗教者のお説教にも風刺の眼を向ける。

▽「ルバイヤート」の影響を受

第65回 全出版人大会

日時 / 2026年5月7日(木) 午後3時より

会場 / ホテルニューオータニ東京 鶴の間

講演 / 林真理子氏 風呂敷アトワーク / 村上隆氏



出版クラブは皆さまの「クラブ」です。
お気軽にご利用頂ければと存じます。
出版イベントや各種会議・セミナー等
益々のご利用をお待ち申し上げます。

出版クラブホール・会議室

PUBLISHERS CLUB HALL

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル
TEL 03-5577-1511/FAX 03-5577-1772
<https://shuppan-club-hall.jp/>

神保町駅(東京メトロ半蔵門線・都営新宿線・三田線)
A5 出口より徒歩2分

発行所 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-1 一般財団法人 日本出版クラブ TEL 〇三(五五七七)一七七二(代) FAX 〇三(五五七七)一七七二 発行人 横川裕史 印刷所 上毛印刷株 頒価 百円